

播州織

地 場 産 業 “ 播 州 織 ”



「播州織」は、平成20年に特許庁から地域団体商標（いわゆる地域ブランド）に認定されました。西脇市を中心とした産地で考案、糸染め、製織、加工されたものの中で一定の品質基準に達したものを認定することとし、認定製品にはロゴタイプのシンボルマークを添付します。地域ブランドの取得により、「播州織」ブランド意識の高揚を図り、高い品質基準の維持・向上に努めるとともに、周知活動などを通じて情報発信に努めています。



播州織は主に、西脇市、多可町を中心とした地域で生産されています。名物の播州ラーメンは、戦後に地域の繊維工場で働く多くの女工さんの口に合うように工夫された結果、今の甘みの強い醤油味に辿り着いたと言われています。



自 治 体 の 取 組 紹 介

“西脇ファッション都市構想”

【播州織の維持と創造、そして西脇のブランド化へ】

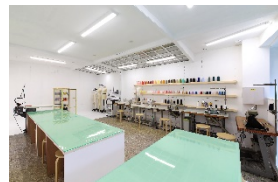
「ひと」、「にぎわい」、「わざ」の切り口で、官民一体となり、播州織のイノベーションを促進することにより、デザイナーをはじめとするファッションクリエイターを増やしていくとともに、ファッションを志す若者が集い、活躍できるまちの実現を目指しています。

企画、デザイン・染色・織布・加工の工程が集積し、産地内でテキスタイルを作製できる体制の強みを生かし、播州織の最終製品を次々と創出し、ブランド力の向上を図っています。

近畿経済産業局が全国で初めて創設した「ローカル・イノベーション・プロジェクト」に、「西脇ファッション都市構想」が登録を受ける。

【コワーキングスペース「CONCENT」の整備・運営】

デザイナー等がいつでも最終製品の開発、試作ができる共有スペースを市内に平成29年4月にオープンし、最終製品の創出や起業を促進しています。



【播州織製品プロモーション事業】

西脇市では、世界中に知名度があり、セレクトショップ業界で幅広い世代から人気を集める「BEAMS JAPAN」と連携し、播州織の新製品開発と店舗・オンラインショップでのテスト販売を実施し、播州織の最終製品化の促進と販路拡大を図っています。



播州織を代表する企業をご紹介します！



島田製織株式会社

企業概要

昭和4年に織布工場として創業。現在は産元として、産地内での分業の取りまとめを行い、各工程の職人たちと協力し合ったオリジナリティ溢れる生地を提供している。時代の流れに応じて、生地の卸売だけでなく最終製品の製造・販売も手がける、西脇市を代表するテキスタイルメーカー。

代表者：嶋田幸直（代表取締役社長）
創業年：昭和4年（1927年）
事業内容：生地の企画提案・営業・生産管理
従業員数：22名

住所：西脇市野村町1796-67
電話番号：0795-22-3621
HPアドレス：<https://shimada-seishoku.com/>



自社ブランド

～hatsutoki～

デザイナーが手がける当社初のオリジナルブランド。コンセプトは「はじめての感動をそのまま伝えたい。」
特別に細い糸を使い繊細な色合い、大胆な柄使い、そして風合いにこだわった生地で服づくりをしています。
「これが本当にコットン？」とろけるような肌ざわりを一度味わってみてください。

「繊維の将来宣言」Pick Up!

自社の強みを生かした経営で価値を高める

- ・最終製品製造に伴い、デザイナーを外部から誘致し、自社ブランドを立ち上げ。
- ・従来の、発注を待つという「受け」の姿勢ではなく、従業員の商品プレゼン力、マッチング力、企画力を向上させ、積極的に顧客へ提案していく営業スタイルへ。

繊維産業が技術とクリエイティビティが融合する最先端の分野であることを広く発信する

- ・製造工程が分業である利点を生かして、各種生地に適した地域内外の製造業者と連携。

持続可能な繊維産業の在り方を模索し、社会課題の解決に貢献する

- ・再生素材・再生ポリエステルの使用や、環境に配慮した素材開発。
- ・地域の高校や各地の専門学校から積極的にインターンシップを受け入れ、将来の人材育成に注力。

今後に向けて

今年4月より自社ブランド「H a T a K a K e」を新たに加えると共に、しっかりとしたものづくりをする企業とタッグを組み、「播州織」自体の認知度をあげて、人々に衣料品を通じて感性豊かな喜びと感動を提供し続けることを目標に、過去から培われてきた確かな職人の産地力と新しい人間による斬新な企画力を融合し、常に新しい生地の開発、製品への提案を推し進めています。





桑村繊維株式会社 KUWAMURA CO.,LTD.

企業概要

昭和3年に織物工場として出発し、蓄積された技術をもとに先見性と独創性を発揮しながら、ファッションからリビングまで暮らしを彩る製品向けの生地を数多く提供する播州（多可町）を代表する繊維メーカー。

代表者：桑村 達郎（代表取締役社長）
創業年：昭和3年（1928年）
事業内容：繊維製品の企画、製造、販売
従業員数：120名
住所：多可郡多可町中区曽我井315
電話番号：0795-32-1180
HPアドレス：
<https://www.kuwamura.co.jp>



社内で10のグループが切磋琢磨!!



～時にはコンセプトが被ってしまうことも！？～

社内にある10の各部門は、それぞれが独立して企画・立案し、魅力ある商品を開発し続けています。各部門で独自ブランド（「Lingo」、「TIPICO」等）を展開し、様々な客層の顧客が欲しいと思う商品をどこの部門が作れるかを競うことで、より良い商品が作られていると自負しています。違う部門の商品にお客さんを獲られると悔しいですが、あくまで同じ会社なので問題ありません。

「繊維の将来宣言」Pick Up!

自社の強みを生かした経営で価値を高める

桑村繊維が誇る“3本の矢”～「企画力」「販売力」「生産力」～

- ・「企画力」…受注生産という待ちの姿勢ではなく、顧客が欲しいと思うモノを先読みして生産し、提案後、即対応できるようにする。企画力に自信があるからこそ出来る桑村独自のスタイル。
- ・「販売力」…10部門（うち7部門が西脇、3部門が大阪）が独自に顧客開拓し販売していく体制。
- ・「生産力」…長年培われた、作り込みのノウハウを持っており、外注先は播州織の産地に立地する企業に限らず、素材に応じて日本各地はもちろん、世界の繊維産地と連携する。

今後に向けて

“お客様が欲しいものを自分たちで考え、お客様が欲しい前に作る” “「こんなのが好きだった」、「これを待っていた」と言われる商品を作る”

を合言葉に、社員一丸となって英知を結集し、ユーザーとのコミュニケーションをより密にとりつつ魅力ある商品作りを心掛けていきます。

また、IT技術やSNS等のツールも活用しながら、播州織を地域ブランドとして広く発信し、より豊かな暮らしづくりに貢献する企業であり続けたいと考えています。

